

3 次元 CG による雪山式雪室の形状表現

200712009 岩井 翼

本研究室では、市内鶴川地区において雪山式雪室の実証実験を行っている。この雪室は四角錐台の雪山を造り、その中に収めた海洋コンテナを保冷庫として利用している。従来、雪山の形状変化は、デジタルカメラで定点撮影した雪山の輪郭線を用いて 2 次元的に表していた。しかし、残っている雪の量を表す手段としては精度が悪く、全体の形状がわかりにくい方法であった。そこで本研究では、まず雪山式雪室の形状変化を 3 次元 CG で表すことを目的としている。今回は 3 次元 CG を作成するために OpenGL 及び Ruby を使用し、雪山や雪室を仮設しているブール等の素材を様々な視点から自由に描くことが出来るようになった。

地震関連情報の分かり易さ・見える化に関する研究

200712027 篠田 拓也

200712048 堀 辰弥

200712050 松田 雄路

国の原子力安全・保安院に設けられた委員会では、表現方法等を工夫し、地震関連情報を分かりやすく伝える必要があるとしている。また、中越沖地震時の住民ニーズを分析した結果、「何が起こり(過去)・何が進んでいるか(現在)」の情報については、簡易であるが、早く・分かり易く・的確な手段で提供されることが求められている。さらにその後の「今後どうなるか(未来)」については、時間を要しても、詳細に・分かり易く・的確な手段で提供されることが求められていることが分かった。本研究では、これらの結果を踏まえて、さらに地震関連情報の分かり易さ・見える化がどうかあるべきかを分析し、定式化することを目的としている。本発表では、まず INES により提案されている研究実施手順「柏崎モデル」について説明する。次に専門家と一般住民の情報についての捉え方や考え方の差の要因を整理するために実施しているヒアリング調査について、実施方法及び大学生を対象に行った結果の一例を示す。